



手城小だより

福山市立手城小学校
2025年(令和7年)
2月17日(月)

【学校教育目標】 自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成

手城小授業公開 ―1年の学びの集大成―

2月5日(水) 東中学校区小中一貫教育手城小学校授業研究会が開催されました。研究主題「自他を認め合い、主体的に生きる力を育成する道德教育の創造～『つなぐ』を意識した学び合いを通して～」とし、東中学校、深津小、旭小、校区外の学校、福山市立大学の学生など100名の先生方が参加されました。全ての学年の授業を公開し、その授業に対して協議を行い、授業者が授業に対する考え方を説明したり、参加された先生方からご意見をいただいたりしながら研究を深めました。また、広島県教育委員会の藤井善貴様から指導助言とご講演をいただき、よりよい道德科の授業の在り方について学びました。

保護者の皆様には、下校時刻の変更等、ご協力をいただきありがとうございました。このように教職員が授業について深く学び考えることは、よりよい授業づくりにつながり、結果的に子供たちが学校で楽しく学ぶ、意欲的に学ぶことにつながります。今後も、教職員一同、日々研鑽していきます。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いします。



道德公開授業 (4年1組)



研究協議会(1年2組)



全体会(体育館)

参加された先生方の感想(一部抜粋)

- 子供たちが価値に迫って一生けん命考えていて、素晴らしかったです。日々の授業の積み重ねがあってこそのことだと思いました。道德を通して、欠席者が減ったり、子供たちが楽しく通ったりと授業が学校生活へ生かされていると感じました。学びの多い1日でした。
- 授業の中で、日頃から子供たちが大切にされていて、先生と子供、子供同士の信頼関係が構築されている様子が分かりました。子供たちがよく考え、発表し、よく聞いている授業でした。黒板を見て「うーん」と考えたり、じっくり考えて自分の考えをワークシートに書く姿を見て、私もこんな授業をめざしたいと思いました。
- 友達の意見を聞いて、つなげながら発言をし、みんなで授業を作っていく姿に圧倒されました。生き生きと自分の考えを伝える子供たちを私も育てていきたいと思いました。
- 子供の意見が次から次へとつながる授業でした。日頃の様々な授業で子供がどんどん発表するトレーニングをされておられるのだと思います。子供に「先生があてるのは、すべて授業に必要なからです。」と話しておられるのが印象的でした。

風水害について知る ―災害は他人事ではない―

2月14日（金）4・6年生が福山市危機管理防災課の江原誠一様、藤井秀一様、藤岡賢真様を講師にお迎えして、南海トラフ巨大地震などの大規模な地震や風水害から、自分や家族の命を守るために今からできること、防災対策について学びました。



講師の藤岡さんが「災害ってどんな種類があるの?」「土砂災害で危ない場所が多い県はどこでしょう」と子供たちに問いかけながら、手城地域で起こりやすい風水害について話されました。

「日本で土砂災害が起きたら危ない場所が1番多い県は広島県です。」と話す「えー!」と驚きの声上がり、平成30年に広島で起きた記録的な大雨による被害や芦田川が氾濫した町はどうなるのか映像を見ました。

「自分の身を守る方法は自助・共助・公助の3つです。災害に関心を持って、家族でいつも話し合ってください。近所の人や地域の人と協力して命を守ってください。地域のつながりが命を守ります。」と語る藤岡さんに、子供たちは「災害は他人事ではない」と感じていました。

避難所でできることは?

手城小学校は避難所となっています。災害が起きた時、避難所などで使う段ボールベッドを組み立てる体験をしました。段ボールは入手しやすく丈夫で断熱性があることから避難所でのベッドに適していることから、6年生は段ボールベッドの組み立てを行い、実際に寝転んで寝心地を確かめていました。他に、新聞紙ですぐに作れる「新聞スリッパ」も作りました。



古新聞は災害時への備えになります。保温効果があり、はくと足指が温まる新聞スリッパです。いざという時に役に立つ、防災の知識。実際の災害でこの経験が生きてくると思います。



段ボールベッドを作った6年生は「もし、今後避難することがあったら、今日学んだ作り方を生かして、段ボールベッドを作ってみたい。」と語りました。

子供たちも地域の一員として、何かをやりたいという気持ちを持っています。もし、この先、子供たちが避難所に行くことになったら、今日学んだ技術を生かして、周りの人を助けたいと思います。